瑞浪高校首都圏同窓会

川柳を楽しむ会

第1回資料

2019年9月14日

小栗清吾

はじめての江戸川柳

小栗清吾

（1）江戸川柳とは（『はじめての江戸川柳』）

江戸時代に作られた川柳＝江戸川柳・古川柳。

明治以降＝新川柳・現代川柳。

（2）江戸川柳はなぜ難しいか

①江戸時代の言葉

去ると言う口も惚れたと言った口　宝七105

黒猫の椀にはきざなあわび貝　一五141

②江戸時代の風俗

五番目は同じ作でも江戸生まれ　初2

おとといはむごくしたなと十五日　五5

③川柳作者と同等の知識・教養（文句取り）

神代にもだます工面は酒がいり　初7　古文書

学問のじゃまだと蛍一つやり　拾四19　漢籍

大三十日ここを仕切ってこう攻めて　明元鶴1　歌舞伎

煮売り屋の柱は馬に喰われけり　初4　俳句

槍持ちは胸のあたりを刺し通し　初6　謡曲

ながらえばまたこの頃は鰒を食う　拾五13　和歌

④川柳独特の約束事

「約束事」とは、ある言葉に川柳独特の特別な意味を持たせること。

姑の日向ぼっこは内を向き　二12

弔いも旅立ちも無く息子ひま　明七仁5

いやな男も来ようなと浅黄言い　二〇2

釣り合わぬものは相模に松ヶ岡　安六礼7

伊勢屋の嫌い初物と信濃者　一五一14

（３）江戸川柳の成り立ち

「川柳」とは。『日本国語大辞典』（小学館）

江戸中期に発生し、一七音を基準として機智的な表現によって、人事、風俗、世相などを鋭くとらえた短詩型文学。もともと俳諧の「前句付」に由来するが、元禄以降、付味よりも、滑稽、遊戯、うがちなどの性質が拡充された付句の独立が要求されるようになり、一句として独立し鑑賞にたえる句を集めた高点付句集が多く出版され、新しい人事詩、風俗詩となった。享保頃から、点者の出題に応じた「万句合」が江戸で盛んになり、その点者、柄井川柳が代表的存在であったところから「川柳」の名称が生まれる。文化・文政頃、「狂句」とも呼ばれた。川柳点。

①俳諧の「前句付」に由来する。

俳諧連歌の付句の練習から始まり、独立した文芸となる。

②点者の出題に応じた「万句合」。（資料①②）

懸賞興行。

○課題の「前句」（十四文字の短句）を水茶屋などに貼り出して、広告する。

○応募者は投稿料（入花料・十二文～十六文）を添え、取次に投稿する。

○取次がまとめて、点者（選者・興行主）に届ける。

○点者は入選作を選び、印刷物（勝句刷り）にして公表する。入選者には賞品を出す。入花料から賞品代、印刷代、取次への手数料などを差し引いた残りが、点者の収入になる。

③柄井川柳が代表的存在。

享保三年（１７１８年）生まれ。寛政二年（１７９０年）七十三歳で没。本名正通。通称八右衛門。江戸浅草、竜宝寺門前の町名主。宝暦七年に点者となり、万句合興行を開始、以後没年まで続ける。

④『誹風柳多留』の発刊。（資料③）

明和二年（１７６５年）、呉陵軒可有篇『誹風柳多留』（初篇）刊行。前句　にとらわれない独立した「川柳」として歩み始める。

前置きに話上手はこればかり　宝十二松２　（前句）ほんの事なり〈〈

（４）江戸川柳独自の世界

①詠史句（『江戸川柳おもしろ偉人伝一〇〇』）

雨やどり迄は無骨な男なり　二〇6 1

抜き所が悪いさかいと公家衆言い　九5 1

なけなしの銭で松明二本買い　四1 1

信濃へは地響きがして日が当たり　初7 3

②吉原句（『吉原の江戸川柳はおもしろい』）

国府より手ざわりのいい三会目　二三9

吉原は紅葉踏み分け行く所　七6 3

こしを目当てにさかやきを撫でて駆け　二一ス1 1

孝不孝二つ並べる塗り枕　拾七2 3

③破礼句（『男と女の江戸川柳』）

手が触り足が触って仲直り　七五0 4

提灯をさげて宝の山を下り　宝八天

毛が少し見えたで雲を踏み外し　末三8 1

目は眼鏡歯は入れ歯にて間に合えど　三八1 2

番外　詠史句クイズ（私は誰でしょう）

御厩へ取り上げ婆駆けつける　八〇0 1

悪筆が寄って筑紫へやる工面　五3 1

蹴破った跡を見に来る実の伯母　宝一〇天1

木曽を抱きしめ緋縅をねだるなり　二二0 4

土砂の要る往生をする衣川　三6
1

洛中に桔梗の花が三日咲き　一二6
3

五条坂合羽屋の子は運が無し　一四3

以上